

平成24・25年度  
医療経済研究機構  
自主研究事業

平成24・25年度  
医療経済研究機構自主研究事業

高齢者ケア施設における  
個別ケアの充実に関する研究  
報告書

平成27年3月

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会



医療経済研究機構

沢村 香苗

## 調査研究体制

### 【調査研究担当】

○沢村 香苗	医療経済研究機構	研究部	主任研究員
中島 民恵子	医療経済研究機構	研究部	主任研究員

(○は主担当)

所属は2014年3月現在

# 研究要旨

## 1. 目的

高齢化に伴い、介護保険給付費や介護保険料は上昇し続けている。資源配分を最適化するために、高齢者の施設ケア整備の上でどのような優先順位付けをするべきなのだろうか。その一つの判断材料として、今回の研究では将来の介護保険受給者となる可能性があり、かつ介護保険の被保険者である一般住民が持っている高齢者長期ケア施設に対する態度に関する知見を得ることを目的とした。

## 2. 回答者

持ち家率と高齢化率、人口規模に配慮して代表的な8都市を選択し、50歳から65歳の男女300人ずつ(合計2,400人)を抽出して調査対象とした。対象者に調査票を郵送し、371名(15.5%)から回答を得た。

## 3. 調査方法

本研究ではコンジョイント分析を用い、回答者の高齢者長期ケア施設に対する選好を把握した。回答者は80歳になった彼らが認知症または骨折のために自立した日常生活が困難になったという想定例を読み、異なる条件をもった2つの施設から、自分の入所先として好ましいものを選ぶという設問に8つまたは9つ回答した。施設の属性を構成する要因は1.生活スケジュール・食事内容が選べるかどうか、2.ケア担当者が固定かどうか、3.部屋(風呂・トイレは含まない)が個室か多床室か、4.おもな交流の範囲、5.健康状態が悪化したら対処が必要かどうか、6.申し込んでから入所までの時間、7.現在の住まいからの距離、8.月当たりの費用(介護サービス、食費、居住費含む)であった。

## 4. 結果

回答者らが一貫してもっとも重視したのは、健康状態が悪化しても継続して住めるという点であった。特に家族を介護した経験のある回答者は、よりこの点を重視していた。

## 5. 結論

健康状態が悪化しても継続して住めることは、個室であることや、個別的な対応がなされることよりも一般住民に高く評価されていた。現在の特別養護老人ホームに対する高い需要は将来の住まいに関する不安によっても増強されており、継続して住めることに重点をおいた施設整備がなされない限りその需要が低下することはないだろう。個別的対応を行うことに重点をおいた施設整備をおこなうのであれば、これに関する普及啓発がより必要であると考えられる。

## 目次

研究要旨 .....	1
1. 目的 .....	1
2. 回答者 .....	1
3. 調査方法 .....	1
4. 結果 .....	1
5. 結論 .....	1
目次 .....	2
第一章 調査研究の背景・目的 .....	4
第二章 調査研究の方法 .....	6
6. 調査期間 .....	6
7. 対象者 .....	6
8. 調査手法 .....	6
9. 属性と水準 .....	6
10. 調査計画 .....	7
11. 調査票の構成 .....	8
12. データ分析 .....	8
13. 倫理的配慮 .....	8
第三章 結果 .....	10
1. 回収状況・回答者の属性 .....	10
2. 住まいの状況や高齢者長期ケア施設に関する考え方 .....	12
3. 高齢者長期ケア施設に対する選好 .....	15
第四章 考察 .....	19
1. 限界 .....	20
資料編 .....	22